

1 目的

国史跡 網野銚子山古墳は、全長約 201mを測る 4 世紀後半に築造された日本海側最大の前方後円墳です。古代「丹後王国」を象徴する古墳で、歴史遺産として保存を図りつつ環境整備を行い、郷土のシンボルとして、また観光資源として活用することを目的としています。

2 古代丹後の概要と背景

- 近年の発掘調査の成果から見ると、弥生時代から古墳時代の丹後地域は、日本海ルートで大陸や朝鮮半島と交易し、先進的な技術、モノを獲得していました。
- その前提として、天然の良港である潟の存在があります。
- ヤマト王権と密接な関係（『古事記』『日本書紀』に丹後関係の内容が記されるほか、伊勢神宮の外宮に、丹後から豊受大神が遷座したという伝承が残っています。）
- このような背景から、弥生時代の巨大墳墓（赤坂今井墳墓）のほか、巨大古墳（網野銚子山古墳、神明山古墳、黒部銚子山古墳）が造られたと考えられます。

3 整備の経過とスケジュール及び事業費

- 大正 11 年 国の史蹟に指定（戦後に史跡）
- 昭和 60・61 年度 ほ場整備に伴う範囲確認調査
墳丘測量
- 平成 19～21 年度 網野銚子山古墳範囲確認調査
- 平成 23 年度 網野銚子山古墳追加指定
網野銚子山古墳基本整備計画策定
- 平成 24～26 年度 史跡指定地等の用地買収
- 平成 27～29 年度 整備に伴う発掘調査、基本設計
- 平成 30 年度～令和 6 年度 発掘調査、整備工事
- 令和 6 年度 供用開始予定



4 整備事業の概要 ～整備基本設計の概要～

- 整理伐採
土が流れないように配慮しながら墳丘の樹木を整理伐採し、古墳の形がわかるようにするとともに、市街地を見下ろした時、古代の潟や港があった景観をイメージできるようにします。
- 墳丘の復元
後の時代の開墾によって失われた墳丘の修復を行います。特に前方部は、発掘調査の成果をもとに、失われた墳丘の一部を盛土で復元します。
- 周濠の整備
古墳のまわりにあった周濠の部分を、わかりやすいように防塵舗装で整備します。
- 階段の整備
古墳への来訪者が墳丘へ上がるための階段を、くびれ部付近の前方部と、前方部から後円部へ上がる部分に整備します。
- 案内板、解説板の整備
網野銚子山古墳の概要や歴史的価値を説明する案内板を整備します。
- 駐車場、ガイダンス施設の整備、および大型バスの通行可能な市道の整備
古墳を来訪する団体や個人がアクセスしやすいように、大型バスが通行できる市道を整備し、あわせて駐車場とガイダンス施設を整備します。